

ゆたか倶楽部 ものがたり

覚悟の船出……②

「クルーズのゆたか倶楽部」は1984年に創業。日本クルーズ業界の黎明期から現在までを同社創設者・クルーズマスターの松浦睦夫氏が同社の歴史とともに語る新連載。

1973年当時勤めていた会社は、旅行会社と船会社、両方の面を備えた珍しい業態。旅行の添乗もすれば、「さくら丸」(大島運輸)のチャーターを希望する会社の下見にも同行し、契約となればチャーター船にも乗船するので、休みのない3年間を過ごしました。「さくら丸」のチャーターが空いている期間は旅行会社として自主クルーズを実施しました。ドックや回航を除き年間320日船を稼働するのは本当に大変でした。

1975年7月から半年間開催された「沖縄海洋博」をさくら丸航空機、フェリーを利用して訪ねる旅行は大当たりし、約7万名を集客しました。現地オペレーター

朝から夕まで勉強づめでした。夜は映画、麻雀、囲碁、将棋、支庁別交流会などレクリエーションタイムです。

た。横井英樹氏の東洋郵船の「オリエンタル・クイーン」はすでに廃船していました。ほとんどの船は8000トン〜1万3000トンで定員500人〜900人です。会社は最初、船旅企画会社としてスタート。覚悟の船出でしたが、荒波の連続でした。大手旅行会社、新聞社系旅行会社、チャーターの経験のある旅行会社などへ営業しましたが相手にしてもらえず、最初の2年間で契約できたのは河合塾の「コラル・プリンセス」を利用したチャーターだけ。売上がない日々が延々と続きました。

大島運輸の「さくら丸」(さくら丸が改名)をチャーターした苦小牧発着10日間の日本一周クルーズを実施した際、乗客の中に北海タイムスの顧問、清水裕雅氏が乗船しており意気投合しました。道内の土建・建設会社15社の顧問をしており、社員研修を考えているとのこと。下船後、話ほとんどん拍子にまとまり、1978年から4年にわたり「グアム・サイパン船の旅14日間」を実施しました。

毎回800名以上の方々に乗船していただきました。2つの大きなホールは名だたる先生の講座で

0万円を借り、どうにか船を出航させることができました。パンフレット代や新聞広告代を含め、トータル7000万円近くの大赤字です。この後100回以上チャータークルーズをしましたが、これが過去最高の赤字額でした。

下船地横浜に着いたのは丸2日遅れ。次はピースボートが同船をチャーターしていたのですが、この遅れで横浜から乗船するはずだった550名の参加者は次々港の広島に移動になり、宿泊代、新幹線代、食事代などスワイヤーが全額負担。相当の賠償金を支払ったと後で聞きました。

豊かにしたい、豊かな旅、豊かな人生、などの思いをこめて「ゆたか」に「集う」という意味で「ゆたか倶楽部」としました。

ら自信もあつたので、二つ返事で安直に契約してしまいました。朝日、読売、毎日の朝刊・夕刊に全五段の広告を出しました。しかし掲載は出発の約30日前。募集時期を逃しておりほとんど反応がありません。結局目標500人に

追いつけませんでした。その都度お客さまにシアターに集まっていただけ、状況説明をしました。客室にパンと果物とジュースを届けるだけの食事が2日続きました。波も穏やかになった頃、コース料理を出せないか船側をお願いしました。しかし厨房は皿や

これを転機にコラル・プリンセスは翌年売船となり、日本での15年の歴史に幕を閉じました。スワイヤーの新村氏は日本郵船との合弁会社「郵船スワイヤー」へ転籍し、客船のノウハウを「飛鳥」へと継承することになります。



1997年まで西日本汽船(日本クルーズ客船)で活躍した「ニューゆうとびあ」



コラル・プリンセスの船長(右)と筆者(左)



チャータークルーズの募集パンフレット



松浦睦夫(まつら・むつお)
長野市松代町出身。1967年大学卒業後旅行会社に入社。1984年「ゆたか倶楽部」創業。海外渡航歴171回、クルーズ業界の第一線に45年間立ち続け、2003年には日本外航客船協会が選定した初代「クルーズ・マスター」の一人に。2015年3月、31年務めた代表取締役を退任。現在は同社オーナー兼取締役。

YUTAKACLUB CRUISES
http://www.yutakclub.co.jp
東京本社: TEL 03-5294-6261
大阪クルーズサロン: TEL 06-6455-0931
横浜クルーズサロン: TEL 045-227-8211

※中国の民主化運動を支援する中国共産党が弾圧した事件。1989年6月4日発生。